

平成29年度第2回 川崎市社会教育委員会議 青少年科学館専門部会摘録

日 時 平成29年10月27日(金) 14:00~16:00

会 場 かわさき宙と緑の科学館(川崎市青少年科学館) 自然学習棟2階 学習室1

出席者(敬称略)

- (1) 委員 (公募市民) 渡邊敬三(部会長)、服部公俊
(学識経験者) 山上明、瀬能宏、松島義章、洞口俊博 (教育職員) 網屋直昭
出席委員: 7名
欠席委員: 3名(社会教育) 岩切貴乃、(教育職員) 滝澤真一、(家庭教育) 眞壁総子
- (2) 事務局 五十嵐館長、大泉、川島、弘田、竹下(司会進行)、小鍛治(生田緑地運営共同事業体)
- (3) 傍聴者 0人

1 開会

事務局より、開会告知、傍聴者受入(定員5名)、記録(録音及び筆記)作成及び会議記録公開について周知。初出席の網屋委員より自己紹介。

2 館長挨拶

- 川崎市では、毎年暮れに市民による「十大ニュース」の投票が行われるが、教育関係として、4月に日本民家園が開園50周年を迎え、様々なイベントが行われていることがノミネートされていると思われる。
- 10月初めに文部科学省主催の博物館長研修に参加した。研修テーマは「人をつつみこむ博物館～地域に寄り添い愛される博物館～」。
- 当館館長として、自己研鑽に努めていきたい。
- 本日は平成29年度の9月末までの事業実施状況の報告を中心にご審議をいただく。忌憚のないご意見をいただきたい。

以下、渡邊部会長が議事進行

3 議事1 平成29年度事業実施中間報告について

部会長

- 専門部会が行う外部評価に係る事業実施中間報告について、事務局より説明を行う。そのうえで委員からご意見等いただきたい。

(1) 展示事業 事務局説明

- 自然: 常設展示「生田緑地ギャラリー」引き出し展示の入れ替え準備開始等
- 天文: プラネタリウム一般投影回数を6月から1回増やし5回とした成果、星空ゆうゆう散歩、ベビー&キッズアワー、学習投影、天文関連展示等
- 科学: 今後実施予定の作品展、サイエンスショー等

【質疑応答】

部会長 プラネタリウム学習投影の実施状況に「147団体」とあるが、どのような数値か。

事務局 9月末までの利用団体数。年間では300団体近くの利用がある。

委員 学校の委員として、プラネタリウム学習投影、科学作品展等の支援はありがたい。今後も継続的な支援をお願いしたい。

委員 プラネタリウム学習投影の小中学校、幼稚園等の利用割合はどのような状況か。

事務局 幼稚園や保育園、理科授業の単元がある小学校4年生が一番多い。6年生も月・太陽の学習があり、3年生も利用がある。次いで中学生。件数は少ないが高校の利用もある。

(2 教育普及事業 事務局説明)

●自然： 昆虫講座（新規）、バックヤードツアー（新規）、日本民家園連携事業「お月見デー」におけるナイトミュージアム等

●天文： 星を見る夕べ（夜間天体観測会）、移動天文車による星空ウォッチング、イベント投影（オーロラ全天上映&トークライブ、12月実施のプラネタリウムコンサート）、子どもプラネタリウムワークショップ、天体観察講座（新規）等

●科学： 実験工房、科学実験キット「ワクワクドキドキ玉手箱」の利用、かわさきサイエンスチャレンジ、科学サポーター研修会、わくわく！科学実験教室ほか各種科学実験教室等

●学校連携： 地層・林の観察、総合的な学習の時間、ゆうゆう広場科学実験教室等

【質疑応答】

委員 かわさきサイエンスチャレンジは、12のブース2日間でのべ2,454人の参加があったとのことだが、主体はどこか。科学館の職員が運営しているのか。

事務局 運営主体はサイエンスチャレンジ運営委員会であり、当館は運営委員として参加するとともに、総予算約270万円のうち、135万円を補助している。館職員が12ブースを運営するのは困難であり、館で内容を企画し、館で活動する科学ボランティア団体と協議のうえ運営に参加してもらっている。以前は「ネットワーク事業」としていたが、ご指摘を踏まえ「教育普及事業」に位置付けている。

委員 2,454人というのは12ブースの参加者にとらえてよいのか。

事務局 そのとおり。サイエンスチャレンジ全体では4,607人の参加があった。

委員 資料中の事業実施回数の表記だが、年間予定回数を（ ）で、その上に上半期の実施済回数を記載しているようだが、（ ）の記載がない場合は年間予定回数が終了したということによいか。

事務局 そのように整理しているが、申請に基づき実施する事業（学習投影、地層観察等）については、（ ）の記載をしていない。わかりづらい点もあり、今後整理したい。

部会長 インターネットを活用した事業告知や申込はどの程度行われているのか。また、学校向け事業周知・申込に学校のネットワークを活用することはできないか。

事務局 自然、天文、科学それぞれの分野、事業により異なるが、科学実験教室やプラネタリウムイベント等ではメールフォームによる申込を多く活用している。インターネット利用できない場合も考慮し、往復ハガキやファックス等の手段も併用するようにしている。

事務局 科学は講座数が多いので、ほとんどメールフォームと往復ハガキによる申込としている。最近の傾向では、ホームページで確認のうえメールフォームによる申込が多い。往復ハガキは郵便料124円がかかることもあり利用が減ってきている。館としてもハガキの印刷等の手間がかかる。

市立学校のネットワークは総合教育センターで管理しており、教員がアクセスできる「掲示板」がある。学習投影や地層・林の観察を含む各種事業の告知や申込への「掲示板」の活用について、今後、同センターの理科担当指導主事と協議していきたい。

部会長 メールフォーム申込やシステムの活用によりサービス向上につながる一方、事務量が増えることも考えられる。バランスを考慮しつつ検討をお願いしたい。

(3 調査研究事業 事務局説明)

- 自然： 職員による自然調査の継続、標本整理・目録作成、電子台帳への登録等
- 天文： 市域星の見え方調査、明治大学との共同研究による木星の観察等
- 科学： 科学実験キット「ワクワクドキドキ玉手箱」の改良、新たな実験・工作物の開発検討等

【質疑応答】

委員 教育普及事業は実施回数等多く記載されているが、それに比べて調査研究事業は具体的な記述が少ない。調査研究に要する専門性や時間等、どの程度のエネルギーを要しているのかわかるよう記載すべきである。

部会長 紀要は毎年刊行しているのか。また、他館へはどのくらい送付しているのか。

委員 そのとおり。現在、第28号の編集計画について検討中である。全国への送付数は41館・施設である。以前は多く送付していたが、送付先の精査、継続送付希望を確認のうえ、現在の送付数となっている、なお、電子データを当館ホームページに掲載し、ダウンロードできるようにしている。

委員 紀要の編集作業は自前で行っているのか。

事務局 そのとおり。

委員 予算が厳しいとは思いますが、編集において、自前でなくてもできる作業については、委託にして業務負担を軽減することも検討してはどうか。館の事業規模を考えれば可能と思われる。

(4 収集保存事業 事務局説明)

- 自然： 収蔵資料の分類・整理作業の継続、電子データの情報公開等
- 天文： 太陽観測記録のデジタル化、寄贈資料の整理保存等
- 科学： 科学実験データの整理・共有化、磁石をテーマに「ワクワクドキドキ玉手箱」(磁石)の整理・充実の検討等

【質疑応答】

委員 調査研究事業と同様、登録件数等が具体的に記載されておらず、作業量が不明である。手間のかかっている作業であるからこそ、アピールする意味でもきちんと記載すべきである。県立生命の星・地球博物館でも、標本整理や登録作業にはかなりのエネルギーを費やしている。

事務局 今回の中間報告では具体的に記載しなかったが、データはあるので、年報への記載とともに、今後は挙げていきたい。

委員 収集保存事業は専門性が要求される博物館の基幹事業である。その取り組み状況については積極的に公表してほしい。

(5 ネットワーク事業 事務局説明)

- 自然： 市役所関係局への情報提供・連携、当館、日本民家園及び県立生命の星・地球博物館の協働による日本民家園における昆虫（主にハチ）調査の実施、NPO法人かわさき自然調査団との連携協力体制の継続等
- 天文： 日本民家園との連携事業「七夕体験」「お月見デー」。お月見デーでは民家園での月観察会、当館でのプラネタリウム夜間特別投影の実施、本市経済労働局主催「聴こえのバリアを乗り越える新たなプラネタリウム鑑賞の実証実験」に協力等
- 学校連携： 中学生の職場体験学習、教員研修会等への協力、市立中学校連合文化祭への協力等

【質疑応答】

委員 ネットワーク事業も他の事業と同様に自然、天文等に分類されているが、ここでは科学関連の記載がない。また、学校連携があるが、教育普及事業にも学校連携があり、分類の統一性がなくわかりにくい。科学館の運営基本計画に基づいて項目立てされていると思われるが、どちらかと言えば、自然は調査研究が中心、天文は教育普及が中心となっている。どの事業も同様に自然、天文、科学という形で分けるのは違和感がある。機能で分類した方がよいのではないか。

委員 「事業名」と「分野」を逆にするとわかりやすいかもしれない。

部会長 評価にあたっては事業名からネットワークの状況を見る方がわかりやすいかもしれない。評価しやすい記載を検討してほしい。

事務局 今回の中間報告資料は事業評価の項目に沿って作成しており、その事業評価は「科学館運営基本計画」に基づき構成されている。今後、整理が必要と考えている。

部会長 教員研修会は6回実施とあるが、これで終了か。今後も予定されているのか。

事務局 教員研修会には、市総合教育センターや小中学校理科研究会が企画するもの、当館が企画するものがある。例えば、生田緑地の地層観察は、小学校の教員が自前で実施できるよう指導研修を随時行っている。教員研修会は平成28年度20件以上行っているが、件数は減ってきている。理由として、これまでの研修の成果として学校に観察等のノウハウが蓄積されてきている点もあると思われる。

委員 教員社会体験研修は、県内の教員を対象に行われているのか。

事務局 県内の小中高等学校、特別支援学校の教員からの要請に基づき実施している。3日間の博物館業務研修で、平成27年度は県立城山高校の教員が3日間、平成28年度は逗子市立池子小学校の教員が2日間研修を行った。今年度は現在のところ要請はない。

部会長 天文の新規事業「聴こえのバリアを乗り越える新たなプラネタリウム鑑賞の実証実験」は、今後どのような計画なのか。

事務局 主催である経済労働局と参加2企業が今後協議を行い、そのうえで要請があれば協力を検討することになるが、現時点では未定。当館が主体的に実施に関わるものではない。

(6 管理運営 事務局説明)

- 入館者数及びプラネタリウム観覧者数等

事務局 管理運営の中間報告は9月末までの入館者数データのみ掲載している。入館者数、プラネタリウム観覧者数ともに昨年度よりやや増えている。前年度比の増減は月によってばらつきがある。

【質疑応答】

委員 入館者数の増については、要因を分析する必要がある。県立生命の星・地球博物館でも、来館

者数は昨年度より増えている。

事務局 入館者数は館入口のセンサーでカウントしているが、緑地内ということで、天気によって左右される傾向がある。特に土日祝日に晴天が重なると入館者が増える。特に、大きなイベントが晴天と重なると多くの入館者がある。

委員 日本民家園のボランティアをしているが、こちらでも来園者が昨年度より増えている。これは、開園50周年で南武線車内や駅をはじめ広く広報されていることが要因と思われ、生田緑地全体としても利用者が増えているのではないかと。

委員 入館数の増減について、週単位で比較してはどうか。月内の土日祝日数の違いも考慮し、土日祝日の入館者数などが比較分析できるのではないかと。

委員 管理運営の中間報告では、入館者数しか挙げられていないが、他にも指定管理者との組織連携体制、危機管理、専門部会の活動等たくさんの評価項目がある。評価の対象になる項目については全て報告してほしい。

委員 管理運営という区分に入館者数統計が入っているが、入館者数は教育普及事業の成果指標ではないかと。調査研究事業であれば論文数、資料収集事業であれば標本点数、台帳登録件数等が指標となる。区分や分野の整理が必要である。

事務局 中間報告では入館者数しか報告しなかったが、今後、評価作業をお願いするにあたり、管理運営のその他の項目についても詳細な資料を作成する。

部長 中間報告ということで、一部記載が不十分な点があった。委員の意見を踏まえ、今後、評価作業に必要な資料を作成すること。これで中間報告に関する議事を終了する。

4 その他

部長 その他として、次回の専門部会の説明、学校支援事業及び収蔵庫の整理について、事務局からの説明・見学案内をお願いしたい。

(1) 第3回専門部会（事業視察）の希望調査について

●展示、収蔵庫、プラネタリウム投影、天体観測、各種観察会・体験教室等の現地視察・職員解説を、11月中旬から12月中旬にかけて行う旨、事務局より説明。各委員に希望する視察内容、日時を調査表に記載のうえ提出していただき、事務局で調整のうえ事業視察を行う。

(2) 学習支援事業について

●学校への学習支援事業について、資料説明及び実験室において科学実験キット「ワクワクドキドキ玉手箱」の見学・解説を行った。

事務局 主に小中学校のプラネタリウム学習投影、地層観察等の教員利用案内を作成している。また、幼稚園・保育園向けの学習投影利用案内もある。幼稚園・保育園は七夕の時期の利用が多い。(資料4により説明)

先ほども資料1で説明したが、学校支援関係事業としては、プラネタリウム学習投影、小学校理科優秀作品展、学校等への出前天体観測「かわさき星空ウォッチング」、「ワクワクドキドキワクワク玉手箱」を活用した出前科学実験教室、地層・林等の自然観察会、総合的な学習の時間の支援、ゆうゆう広場（適応指導教室）実験教室、宇宙の日絵画コンテスト等のほか、教員向け各種研修、大学連携事業等が挙げられる。

●実験室、実験準備室見学

事務局 現在、23のワクワクドキドキ玉手箱が整備されており、プラスチックケースに実験に必要な道具、や消耗品類、解説書がセットされている。人気の高いもの、利用の少ないものもあり、随時改良、見直しを行っていく。

(3) 収蔵庫の整理について

●自然系資料の収集・整理保存作業の近年の成果と課題について、実際に収蔵庫を見学しながら説明。また、台帳化作業状況についても入力様式等を確認していただき、それぞれご意見をいただいた（事務局より説明）。

(4) 「紀要」最新号の配布について

事務局 青少年科学館紀要の最新号、第27号を配布している。先ほど審議いただいた科学分野の調査研究について、報告を掲載している。その他の内容も含めて確認をお願いしたい。

5 閉会

部会長より閉会告知